

受験感想 -慶應義塾大学大学院 薬学研究科

院 A 班 段紹清

2022年8月20日、私は慶應義塾大学の合格通知を頂きました、いよいよ留学の道が終わりに近づきました。来日してから正式に合格通知書を受け取るまで、亜細亜友之会外語学院の先生方のご助力と励ましがありました。

航空券の関係で2022年5月末に日本に到着し、志望校の出願の〆切まで残り2週間を切りました。学校の進学担当の大澤先生とアポイントを取って、隔離解除後の初日にすぐに面談をしました、出願書類等の確認も一緒にやっていただきました。大澤先生はかなり成熟した指導経験をお持ちです。出願に当たり中国で通った大学の電子版の成績証明書が必要になりますが、大学は電子版しか発行できない件についても大澤先生は私にもう一度中国の大学側に紙ベースの成績証明書を発行できないかを確認するよう助言をいただき、日本の大学院にもメールを送って、成績証明書の件を説明していただきました。志望校への確認と連絡を繰り返し、ようやく志望校に出願することができて、受験準備の段階に入りました。先生の仕事がこれほど丁寧で、先生の配慮もここまで細やかであることを初めて知りました。驚きましたが、感無量でした。必ず合格し、大澤先生に感謝したいと思いました。

実際、試験の準備段階は私にとって挑戦の始まりだったことに後から気づきました。中国の大学学部での専攻が薬学であった為、日本の大学院の出願も薬学の方向で出願したいと思いました。学部で勉強した内容を日本語で書くだけだと思っていたが、大澤先生と面談した後、自分は試験内容についてはほとんど知っていないと気づきました。

まず受験用の教材選びですが、日本の薬学は4年学制と6年学制に分かれており、志望校の試験問題をよく読んだところ、日本の薬剤師試験は6年制であることが分かりました。学部での勉強内容と比べると、日本の薬事法や健康知識など、学んでいないことがたくさんあることに気づきました。この時、本試験まで2か月を切っていたので、私は不安になり、事前の準備が足りなかつた自分を責めました。それを知った大澤先生は、教科書の選びに積極的に協力してくれ、「どんな問題が起きても相談していいよ」と慰めてくれました。私はとても感動し、それ以来、正式に独学と全力疾走の段階に入りました。

独学の道は困難が多く、日本語能力の問題もあり、例えば「非競合拮抗薬の有効性指数 pD'2」という日本語名詞など一部の固有名詞の説明が理解できませんでした。この時、改めて大澤先生の言葉を思い出し、急いで先生に助けを求めました。大澤先生はまず本を読んで、そしてこの用語の意味を私に丁

寧に説明してくれましたが、まだ少ししか理解できなかつたので、彼は絵を描いて、私に説明してくださいました。私は感動し、もっと勉強して試験に合格しようと決心しました。

実際、私は精神的に問題を抱えていることが多く、自信を失いやすく、自分の能力を疑いやすい人間です。特に試験段階に入ると、試験に受からないのではないかと不安になり、集中できないことがあります。大澤先生は積極的にコミュニケーションをとって下さいました、「謙虚な人間だけが自分の欠点を見つけて改善し続けることができる」と私の能力と努力を信じて励ましの長いメッセージを送ってくれました。先生の励ましとサポート、そして最後には丁寧な面接指導のおかげで、無事に志望校に合格し、念願の夢を叶えることができました。

普段の先生達の授業も非常に面白く、日本の知識をたくさん学びながら、日本のさまざまな側面や興味深いニュースを知ることができます。そして、大澤先生は学習面だけでなく、生活全般にわたって私たちを気にかけてくださいました。慶應義塾大学に入学した後、大学院入学までまだ半年あるので、残り半年で日本語をしっかり勉強して博物館や美術館に行ってほしいと大澤先生はおっしゃいました。「これから半年を意義ある時間としてすごしてくださいね!」とのメッセージをいただきました。

石川先生、大澤先生、申先生、臧先生をはじめ、進学の過程で励まし、気遣い、助けてくださった亜細亜友之会外語学院の先生方に感謝し、これからも頑張っていきたいと思います。自分の留学生活を充実なものにしたいと思います。